

競技注意事項

1 競技規則について

本大会は、2025 年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。

2 競技場使用について

- (1) ウォームアップは、補助競技場を原則とする。練習は係員の指示によって行うこと。
 - ・ 1～2 レーンは周回練習のみ、3～4 レーンは短距離練習のみの使用とする。
 - ・ ブロックを使用してのスタート練習は多目的広場側直走路 5～10 レーンのみとする。
 - ・ 多目的広場側直走路 7・8 レーンは女子 1 0 0 mH、9・10 レーンは男子 1 1 0 mH とする。
 - ・ リレー練習は用器具倉庫前第 2 コーナー付近で行うこと。第 4 コーナー付近でのリレー練習は禁止する。
 - ・ メディシンボールやミニハードル等、競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。
- (2) 砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- (3) 練習および競技で使用したマーカー（テープ類）は、必ず使用後に各自で処理すること。
- (4) 雨天時に限り、雨天練習場を開放する。雨天練習場の使用は、体操、ストレッチ、動き作り、ジョギング程度とし、スパイクを履いての走行や、器具（ミニハードルやメディシンボール等）を使用しての練習は禁止する。なお、雨天練習場への出入りは、第 2 ゲート側からのみとする。
- (5) 全天候走路であるため、スパイクのピンの長さは 9mm 以下とする。ただし、走高跳は 1 2mm 以下とする。また、スパイクピンの本数は 1 1 本以内とする。

3 競技者の招集について

- (1) 招集所は、競技場第 2 ゲート（1500m スタート地点）付近に設ける。ただし、棒高跳については現地で招集を行う。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は次のとおりとする。※タイムテーブルを参考にすること。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技（四種競技を含む）	競技開始 3 0 分前	競技開始 2 0 分前
フィールド競技（四種競技を含む）	競技開始 4 0 分前	競技開始 3 0 分前
フィールド競技（棒高跳）	競技開始 7 0 分前	競技開始 6 0 分前

- (3) 招集の手順
 - ① 競技者は、招集開始時刻までには招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、競技役員にアスリートビブスとスパイク、衣類および競技場内へ持ち込む物品等の確認を受けた後、競技役員の指示に従って入場する。（携帯電話や通信機器および音楽再生機等は持ち込めない）
 - ② 招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技に出場できない。
- (4) 2 種目を同時に出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が競技者係に申し出る。2 種目同時に出場する場合は、トラック競技を優先する。
- (5) リレー種目に出場するチームは、予選・決勝ともに第 1 組の招集完了時刻の 6 0 分前までに、オーダー用紙を競技者係まで提出する。オーダー用紙は招集所に準備する。なお、一度オーダー用紙を提出したら、その後の変更は招集完了時刻までに主催者が任命した医務員の判断がない限り認められない。
- (6) やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出る。

4 競技について

- (1) スタートの合図は英語とする。不正スタートについては、1 回目から失格とする。ただし四種競技においては、各レースでの不正スタートは 1 回のみとし、その後に不正スタートした競技者はすべて失格とする。
- (2) 予選におけるトラック競技のレーン、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- (3) 800m までのトラック種目の予選は、タイムレース上位 8 名が決勝に進出することができる。また、男女 1500 m は、タイムレース決勝とし、男子 3000m は決勝レースのみとする。
- (4) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (5) 短距離種目では、事故防止のため、フィニッシュ後も自分に割り当てられた走路（曲走路）を走る。
- (6) リレー競技においては、チームの出場者は同一のユニフォームを着用する。ただし、同じチームであることが分かれば、ユニフォームの形式は問わない。
- (7) リレー競技のマーカーの使用は 1 カ所とする。使用したマーカーはそのチームで処理する。
- (8) 競技場内での跳躍、投てきの公式練習は、審判員の指示によって行う。
- (9) 走幅跳、三段跳、砲丸投は 3 回の試技を行い、上位 8 名を決定する。上位 8 名の者は、さらに 3 回の試技を行い、順位を決定する。
- (10) 三段跳においては、踏切板から砂場までの距離を 1 0 m とする。
- (11) フィールド競技における助力は、観客席に設けられたコーチ席（コーチングエリア）でのみ認める。また、コーチ席（コーチングエリア）近くで、競技者が競技区域の外にいる者から提供された録画再生機器を手を持ち、捜査して確認することができる。
- (12) 携帯電話等の通信機器、ビデオ・デジタルカメラ等を競技場内に持ち込むことはできない。
- (13) フィールド競技における競技中の選手への水分の差し入れについては、該当競技審判員を通じて選手に手渡すことができる。

5 競技用シューズについて

- (1) WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に、招集所での計測を実施しない。ただし、審判長の権限により、靴底の計測を求められた場合は計測する。計測の内容としては、TR5. 13. 3（国内TR5. 2）にある厚さ等を確認する。

6 競技場への入退場について

- (1) 競技場への入場はすべて係員の誘導による。
※ 競技開始場所においても、直前の点呼があるので勝手に行動しないこと。
- (2) トラック種目の退場は、フィニッシュライン到着後、係員の誘導によって退場する。
- (3) フィールド種目の退場は、係員の誘導に従って退場する。

7 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは指定された大きさの数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技の出場者は胸または背のどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、腰ナンバー標識を選手招集所で受け取り、ランニングパンツの左右やや後方につけること。競技終了後、フィニッシュ付近の指定された場所へ返却すること。
- (3) 男子 3000mについては、別ナンバーカードを招集所で受け取り、胸と背につけること。

8 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は、最後の1人になるまでは次のとおりとする。

走高跳	男	145（練習）	150	155	160	165	170	173	176	以後3mごと
	女	125（練習）	130	135	140	145	148	151	154	以後3mごと
四種 走高跳	男	137（練習）	140	143	146	149	152	155	158	以後3mごと
	女	117（練習）	120	123	126	129	132	135	138	以後3mごと
棒高跳	男	240（練習）	250	260	270	280	290	300	310	以後10mごと
	女	160（練習）	170	180	190	200	210	220	230	以後10mごと

- (2) 棒高跳の支柱移動は、口頭で競技役員に伝える。

9 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールについては、検査において合格したものに限り使用が認められる。個人所有のポールの検査は、最終点呼時に跳躍審判員が行う。
- (2) 練習用としても個人の用具を競技場に持ち込んではならない。

10 表彰について

- (1) 個人表彰は、第1～3位の選手に賞状を授与する。
- (2) 決勝種目終了後、個人表彰の指示を中央エントランスホールで行う。
- (3) 新記録樹立者には新記録賞を授与する。

11 応援横断幕・のぼり旗、個人テントの設置について

- (1) 応援横断幕・のぼり旗の設置場所は以下のとおりとする。
 - ・応援横断幕 … バックスタンド・サイドスタンド最上段通路手すり部分（8m以内）
バックスタンド中段通路手すり部分（5m以内）
 - ・のぼり旗 … バックスタンド・サイドスタンド最上段通路手すり部分
- (2) スタンド等の通路をさえぎる状態での設置はしないこと。
- (3) 設置についてはロープ等を使用すること。（粘着テープ等の使用は禁止する。）
- (4) 個人名の入った応援横断幕・のぼり旗等は許可しない。
- (5) 本競技場内に個人テントを設置する場合は、バックスタンド及びサイドスタンド中段通路より上、または周辺道路の交通の妨げとならない場所に設置すること。

12 その他

- (1) 参加の拒否（TR4. 4. 2）については適用しない。
- (2) 抗議と上訴（TR8）については、申込書に記載のある各団体の監督または引率、コーチのみが行うことができる。それ以外は認めない。